



2. 肺機能検査とは？

肺は空気中の酸素を体内に取り込み、二酸化炭素を排出する働きがあります。

この検査は、肺に出入りする空気の量や息を吐く強さを測定して、肺が正常に機能しているかを調べます。肺気腫、肺線維症、気管支喘息などの呼吸器の病気の診断や治療効果の判定、全身麻酔での手術が可能かの判断などに用いられます。

一般的な検査(一般肺機能)として、肺活量(肺に入る空気の量)、努力性肺活量(胸いっぱい吸い込んだ空気を一気に吐き、最初の1秒間でどのくらい吐けるか)の測定があります。

さらに精密な検査(精密肺機能)として、肺への酸素の取り込みやすさを調べる機能的残気量、肺拡散能力、クロージングボリュームがあり、こちらはすべて予約検査となっております。

検査の受け方

鼻専用クリップで鼻をつまみ、マウスピース(筒状のもの)を口にくわえ、口で呼吸を行います。技師が「吸って」「吐いて」と声をかけて呼吸の合図を出しますので、合図に合わせて頑張ります。

検査時間は一般肺機能が15～40分、精密肺機能が30～60分です。



気をつけること

- ・ この検査は、正確な測定値をだすために、患者さんの努力・協力が必要です。技師の声かけにあわせて、呼吸をお願いします。
- ・ 検査当日の吸入薬の使用は診療科でご確認ください。
- ・ 食事、服薬はいつも通りでかまいません。
- ・ 検査当日の喫煙はなるべく控えてください。
- ・ 検査の開始時間は、検査内容や急患などで前後することがございますのでご了承ください。
- ・ 検査予約時間においでにならない場合、キャンセルとなる場合がございます。
- ・ 都合によりおいでになれない場合は、各診療科へ必ずご連絡ください。